

Live in Style

上質な暮らし方を追求するライフデザイン誌 【ライブスタイル】

株式会社 ハウスプロ

Vol. 81

【特集】 限りある空間で魅力ある家づくり
◆効率の良い間取りで暮らしを楽しむ
◆スムーズな動線を考えたリビング&ダイニング



著名な寺院や庭園などでも多く見られるように、四季折々の景観と庭の景色をつなぐことで奥行を持たせる発想は「借景(しゃっけい)」といわれ、古くは平安時代からあったとされています。日本ならではの“限られた空間”を利用して、広い庭がなくても自然との融合によって住まいに広がりを生み出すことは、庶民の間でも身近に楽しまれてきました。そして、現代の住まいづくりにも、この知恵が再び生かされようとしています。外の光を注ぎ込ませることや、庭やテラスとのつながりをもたせて空間を広く見せたり、一軒家を楽しむためのアイデアは広がるばかり。間取りから準備することはもちろん、家具のセレクトひとつでも随分印象が変えることができます。限られた空間を活かして、いかに家族が快適に暮らせるかを一緒に考えていきましょう。

限りある空間で「魅力ある家づくり」をしませんか？

普段の会話のなかで「整理・整頓」という言葉をひとまとめにすることが多いですが、実はこの2つは違う意味を持っているのです。「整理」とは「いるものといらないものを分け、いらないものを捨てる」という意味があります。管理できる分量を超えていたら、たとえ収納テクニックがあつたとしても行き届かず、美しくする効果は望めません。なのでまず、要らないものを捨てる「整理」が先決となってきます。また「整頓」とは、「必要なものをい



つでも誰でも取り出せるように秩序だてて配置すること」をさします。「整頓」とは“戻す場所”と“そこにいつまで置くか”の2つを決めること。このルールを決めることで、不要なものは捨てられ、必要なものは元に戻されます。元の位置にあるから見つかるのです。限りある空間でこそ、このシンプルな作業を繰り返すことで常に美しく魅力的な部屋が保たれるのです。

庭との調和でリビングルームを最大限活かす

家族がゆったりと過ごすはずのリビングが、十分にスペースを取れなかった場合、どのように解決すればよいでしょうか？例えば、小さくても庭を作り、視覚的に広がりを持たせることが効果的といえます。また庭に出るまでにデッキの高さを、リビングの床と同じ高さにしておけば、一体感のつながりで内側のリビングさえも広く見えてきます。また、庭が設けられなかったとしても、窓を大きく取るこ

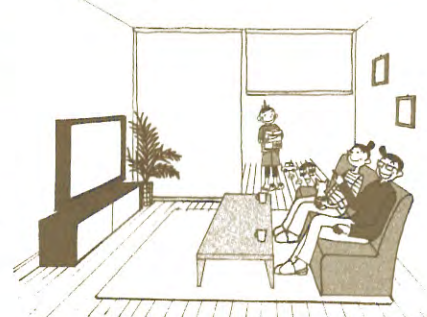
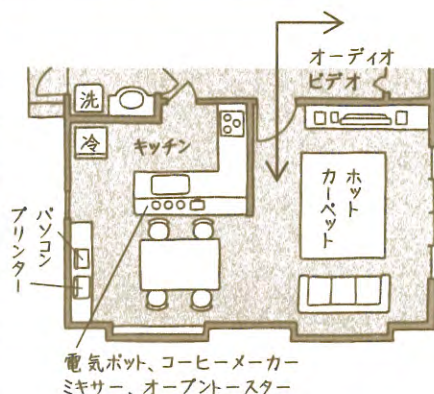


とによって、外に向かって視界が広がり、室内に居ながらも、光の変化や季節の移り変わりを身近に感じることができます。窓がそのまま大きく開放できるようになっていれば、なおさらピクニック気分が食事や午後の憩い、そしてパーティまで楽しめる空間になります。



効率のよい間取りで暮らしを楽しむ

限られた面積や間取りの中では、いかにスペースを配分するかがポイントとなります。家具を置きすぎたあとで後悔しても、後でなかなかバランスを取るのには難しいことです。間取りに適した広さをとるには、家族の動線や優先順位を明確にすると良いでしょう。まず置く予定の家具や家電などのサイズを測り、図面に書き込んで広さを確認しましょう。そのスペースでどんな活動をするか想像すれば、「足りない家具がある」とか「この家具は大きすぎて置けない」などが分かってきます。家具の配置が決まれば、あとは「ドアや収納扉を開けた状態で使う家具を置いて余裕があるかどうか」、「人と人がすれ違うための通路部分には十分な幅が取れているかどうか」を確認しておきましょう。動線となる通路の幅は、平均的には55cm~60cmとされていますが、この数字は最小といってもいい幅です。家族がすれ違う事が多くなりそうな場所には、倍の「すれ違いスペース」が必要になると考えておきましょう。



特集

限りある空間で魅力ある家づくり

創意工夫で
楽しみながらつくる
快適な一軒家



アイデアインテリアを楽しむ 「見せたくないソファの背面を利用しておしゃれに間仕切り収納」

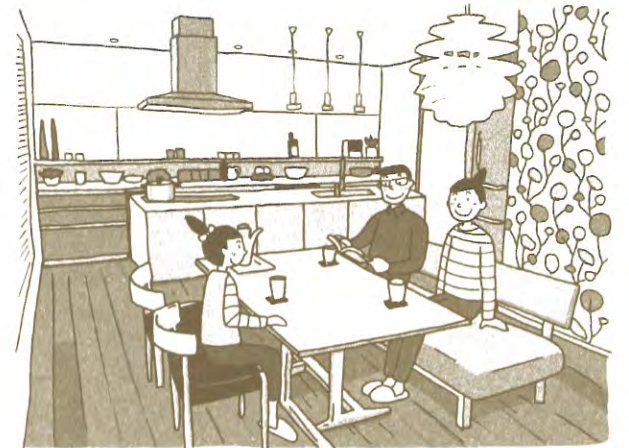
リビングルームに必ずあるといつていいほどの存在は、ソファですね。しかしながら結構な大きさのスペースをとってしまう家具ですから、そのレイアウトには悩むところ。壁にくっつけてしまえば収まりは良いのかもしれませんが、月並みなレイアウトになったり、ダイニングルームとの境目がなく、逆に機能的でなくなる面があります。そこで、思い切ってソファの背面を見せることで空間を仕切ることにしてみましよう。さらにイラストのようなラックを設置すれば、背面を見せることなくパーティションの機能を備え、雑誌や小物まで収納できるので一石二鳥だと思いませんか。



Trend Style

スムーズな動線とスペースの効率を考えた、コンパクトなリビング&ダイニングのデザイン

多くは、圧倒的にリビング&ダイニングルームのようです。たとえば、「ここにはダイニングテーブルはもちろん、ソファとテレビ台は必ず置かないと」と決め込んではいませんか？ さらにシェルフやリビングテーブルなど、家具がどんどん空間を埋め尽くしてしまっているから、窮屈とを感じるのもうなづけます。今回のトレンドスタイルでは、少し手狭に感じるリビング&ダイニングルームの新しい使い方や注目を浴びているスタイルをご紹介します。毎日過ごす空間だからこそ、快適に過ごしたいもの。レイアウトや家具選びを少し見直すことで“魅力ある空間”を作ってみませんか。



日頃過ごしている“狭い”“窮屈”と感じている空間の

“ラウンジスタイル”のリビングも選択肢のひとつ



近年インテリアショップや雑誌などで取り上げられている「ラウンジスタイル」の認知度が上がっています。限りあるリビング&ダイニングルームにゆとりをもたらすため、食事にもくつろぎにも適するテーブル&チェアを置くだけのシンプルなレイアウト。ソファがない分、随分とスペースを有効的に使えるのが魅力です。テーブル&チェア

は従来の高さよりも低く設計されたものを選ぶことで、ソファでくつろぐようにおしゃべりをしたりTVを見たりすることができます。ただし以下のことに気をつけることが必要です。“姿勢をキープできる背もたれやアームがあること”“座り心地がよい座面であること”“快適に食事ができる高さであること”“姿勢を変えても納まりがいい”など、まずは家族の好みやスタイルにマッチしたものを選ぶようにしましょう。

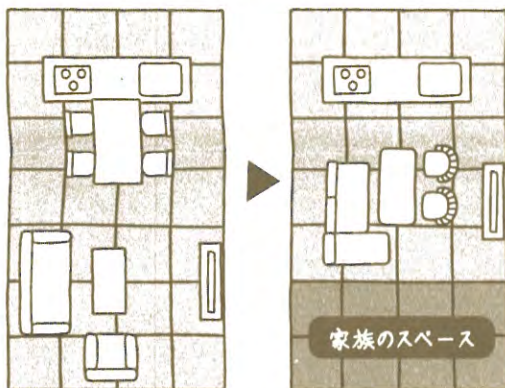
“ベンチチェア”ならゲストが来ても大丈夫

ダイニングルームで意外にスペースを取っているのが、テーブルを取り囲むチェアの存在。“4人家族ならチェアは4脚必要”と無理やり揃える必要はありません。たとえばメインのチェアを2脚だけにして、あとは長い“ベンチチェア”を用意してみるだけで、様々なレイアウトが楽しめるようになります。下のイラストのようにサイドに置くだけで、視界が広がり、ダイニングルームが広く見えます。通常のチェアだと1脚に1人しか座れませんが、ベンチなら2~3人は座れるので、複数の友人や親戚が来た時や、子供達もさっと座ることが



できるので便利です。掃除する際には壁側にくっつけておけるので、すっきりとした印象を与えますし、動線もよくなり一石二鳥の優れたものです。

兼用できる家具えらびでスペースに余裕を



限られたスペースに、沢山の家具を詰め込むより、兼用できるアイテムを活用すると余裕が生まれる

左のイラストのように、キッチンの横にダイニングテーブルをおき、リビングスペースには、ソファとリビングテーブルを置くのがこれまでの一般的なレイアウトです。それを思いきって、右のイラストのように家具をひとつにすることで、随分とスペースを空けることができます。庭やインナーテラスに面しているリビングルームであれば、ヌケ感があるだけで、とても開放的になり、フリースペースとして様々な用途に使えるようになります。また、リビング&ダイニングルームの兼用のテーブルは、低めに設定されているため、視界が広がり、部屋に入った時の印象が“とても広々と見える”メリットがあります。2~3人が座れるソファタイプなら、食べた後に寝そべることもできますし、ゲストが来た時にソファを動かせば、違った印象にもなります。



視覚効果で広さを表現するテクニック

限られた空間でも、視覚効果を使うことで、広く、明るく部屋を見せることができます。たとえば、「色」の効果を利用するなら、まずは複数の色を使わずにワンカラーで統一すること。白は圧迫感を与えず、実際以上に部屋を広く見せる効果があるのでおすすめ。白は太陽の光を反射してくれるので、明るく爽やかな雰囲気を作る色です。リビングルームだけでなく、子供部屋や書斎も魅力的に見せることができます。



<窓を広く取ってヌケ感を>

狭い部屋を広く見せるには、視線の「抜け」を作ることも効果的。「抜け」とは、視線を遮らないこと。つまり部屋に入った時、邪魔するものがなく、視線が部屋の奥まで通るようにすれば、開放感が楽しめます。なるべく低い家具を選び、背の高い家具は壁際に置くようにすれば、床面を多く見せて空間の広がりを感じさせることができます。

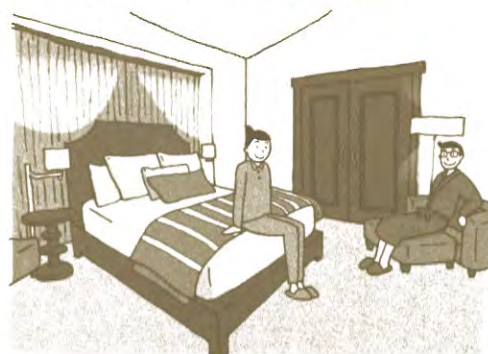


ミラーを使って奥行を表現する上級テクニック

狭く感じている空間に、視覚的な効果を使って広く見せる方法として、「ミラーを使う」こともおすすめです。このテクニックは、よくレストランやショップなどに取り入れられていて、「すごく広く見えて、まだ奥があったのか」と思ったことはありませんか？ というように、できるだけ大きめのミラーを部屋に取り入れることで、そのような“目の錯覚を起こす”効果を活かして、全体に奥行が出て、とても広く見せることが可能です。たとえば、下のイラストのように、部屋の半分を占める寝室のクローゼットの扉を、ミラーに変えるだけで、随分と奥行が出て広々と過ごすことができます。さらに写り込むことを考えて観葉植物を置けば、グリーンあふれる空間に見せることもでき、もちろん姿見としても重宝します。日中の反射なども考えながら上手に取り入れてみましょう。

<ミラーがない場合>

奥行がなく圧迫感を感じる



<ミラーがある場合>

奥行ができて広々と感じる



世界のインテリア
ブラジル郊外編その2
From Brazil



農園のオーナーである家族が暮らす一軒家は、随所にクリエイティブな要素が見られます。アプローチはもちろんパティオ(中庭)など、本物のグリーンや鉢植えを使ったデザインが魅力的。各部屋のアートはご夫婦のセンスが活かされ、訪れる度にゲストを楽しませてくれます。

農園オーナーが描いたハンドメイドハウス

ブラジルの第二弾として紹介するのは、ブラジル西部に位置するマトグロッソ・ド・スル州(Estado de Mato Grosso do Sul)。ポリビアやパラグアイとの国境に隣接し、道路も通じています。自然も多く残されている美しい州都カンポグランデ(Campo Grande)は、「広大な田舎」の意。とてもんびり暮らせて、さらに治安のいい町としても有名です。

特集

限りある空間で
魅力ある家づくり

創意工夫で
楽しみながらつくる
快適な一軒家

カンポグランデで自然に恵まれながら住む

サンパウロより西北西へ、約900キロのマラカジュ山脈の標高約540mに位置するカンポグランデ。豊かな農牧地帯が広がり、牛やコーヒー、米、綿花、サトウキビ、トウモロコシなどの農作物がさかんに作られています。また食肉や皮革だけでなく、マテ茶などの意外な加工業も行われています。日系人が多いことで知られるブラジルですが、このカンポグランデには沖縄からの移民が多いことで知られており、ソーキそばや沖縄そばがよく食されているというから興味深いですね。田舎とはいえ、農作物で成功した農園オーナーたちが多いため、富裕層も多く暮らしています。またこの土地では人口の50%以上が白人で構成されています。



プールサイドでおしゃれに シユラスコパーティー



テラスにプールがあるのは、富裕層の住宅では当たり前ですが、このお宅は照明の使い方がとても個性的。青いプールに照ら

し出されるイルミネーションを眺めながら、巨大なテラスでシユラスコパーティーが頻繁に開かれます。テラスとはいえ、屋根を設けているので、天候に関係なくアウトドアライフが楽しめるようになっています。

もちろん屋外にシユラスコのグリルが設置されていて、屋内では匂い知らずです。



クリエイティブな 家づくりにうっとり



奥様が会計士のこのお宅では、随所に計算されたクリエイティブティが見られます。特に緑を使ったコーディネートが得意のよう。パティオでは壁画と鉢植えで可愛い木がお出迎え。

2人姉妹の子供部屋はシンメトリーでお洒落に彩られています。



殺風景になりがちなお部屋のコーナーに、ちょっとしたセンスが光るコーディネートを見。ワイヤーの鳥かごにライトを入れて、間接照明の出来上がり。屋内でも常にグリーンを取り入れるのがこの家のルール。



大家族の文化ならではの ダイニング&キッチンとは



この家の基本構成は4人家族ですが、両親や親戚が頻繁に訪れるため、

ダイニング&キッチンは広くスペースをとっており、常に多くのチェアも置かれています。またキッチンでは日々「グリルする」ことを前提にした釜が何種類か用意されています。お肉用やピザ用、お菓子用など、メニューによって釜を変えられるのが魅力です。ダイニング&キッチンからは、外のテラスにさっと出られる動線。ガラス窓が大きいので、明るい空間が広がります。



テレビが見られるパソコンなら 仕事も休憩も一石二鳥

パソコンはテレビとならんでリビングで目立つ家電のひとつです。ならばいっそのことテレビにパソコンの機能をプラスしたテレビパソコンを1台置くのもひとつの手。モニター系家電がひとつにまとまって、部屋全体がすっきりします。リビングルームで調べ物や仕事ができ、リラックスタイムにはテレビ番組や映画の鑑賞も楽しめます。またインターネットの動画サイトなども、テレビ感覚で見られるので疲れ知らずで重宝。このようにテレビが視聴できるパソコンのことを、テレパソと言いますが、

選ぶにはいくつかのポイントがあります。まず、HDDの大容量化、そして「録画」機能とBlu-ray Discドライブの搭載、さらに「OSの起動を待たずにテレビ視聴ができる」機能の搭載。この3点を



壁かけタイプのテレビなら せまいリビングを有効的に楽しめる

リビングのレイアウトで多くの人が初めに考えるのはテレビの配置ではないでしょうか。最近のテレビは大画面のもので手頃な価格になり、ホームシアターを楽しむ人も増えています。まずテレビを設置するためにはサイズに合わせた棚を選びそれなりのスペースを確保する必要があります。しかしそれだけのスペースを取ればテレビ中心のリビングになってしまいがち。海外ではテレビを壁掛けにして有効スペースを広く取る家が多いそうです。壁掛けとなると、たいていの場合壁に穴をあけることになりませんが、TVボード(ウォールシステム)を使ったり、突っ張りポールを上手に利用すれば穴をあけずに設置することができます。単にお洒落だけでなく床面を広く取り、空間を大きく見せる効果も得られますね。

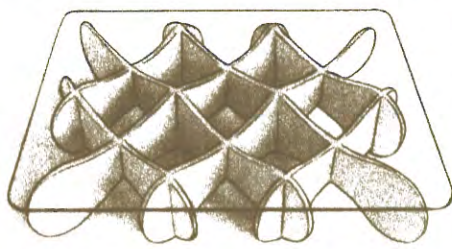


気になりました 気に入りました...

限りあるスペースでも視覚効果のあるおしゃれアイテム集

限られた空間をいかに広く見せるか、ヌケ感のあるものや、スペースを有効的に使える“ちよつとひと工夫”が施された、家具や雑貨をご紹介します。

ガラス越しに見える造形美が華やかなローテーブル。「MATRIX TABLE」



複雑に組み合わせたプライウッドがガラスを支える面白い構造になっています。ガラス越しに見えるプライウッド造形が、お部屋に心地よいアクセントを添えてくれます。このテーブルは高さが265mmと通常のテーブルよりも低めに設定されているため空間を圧迫しないのも魅力です。奥行きがあるのでL型に配置したソファとの組み合わせも相性抜群です。

ナチュラル
Lサイズ: ¥85,000-
Sサイズ: ¥75,000-
ブラックウォールナット
Lサイズ: ¥140,000-
Sサイズ: 120,000-

デザイン: Andrew Tye
サイズ Lサイズ: W1100×D800×H265(mm)
Sサイズ: W800×D800×H265(mm)
素材: プライウッド、ガラス
※ガラスの厚さ: 10mm

収納せずに飾っておけるシンプルな箸置き。「ceramic japan リングセット」

投げ輪のような優しいデザインの箸置きセット。ナチュラルな木製のベースに重ねられた丸くつるつとした質感の箸置きが可愛い「ceramic japan / セラミックジャパン」のリングセット。使う時にもしまう時にも便利



¥2,500-

な革ヒモ付きですが、ずっと出しておきたくなるデザインが魅力。飾りながらの収納やテーブルに置いたまま、しまいこまずに普段使いができます。とてもシンプルなデザインですので、和にも洋にも合わせやすいです。



デザイン: 萩野克彦
素材: 磁器・木・革
サイズ: [リング一個] 直径5×1.4cm
[木台] 高さ11cm
重量: 約210g 生産国: 日本

FULLangle
Tel: 06-6882-8181
www.japan-interior.com

ソファ裏スペースを見事に活かしたスリム収納。「SPADA(スパダ) シェルフラック 150」

CDやコミック、雑誌を収納したり、お気に入りの小物を並べたりするのに最適なスリムなシェルフボード。2~3人掛けソファの背面に設置してパーテーションラックになる程良い大きさの収納家具です。3面から出し入れできるので、間仕切り家具としてもお使いいただけます。



サイズ: 幅1500×奥行220×高さ610mm ¥21,619-
素材: 強化紙、化粧合板 生産国: 日本
カラー: ナチュラル / ウォールナット

底面にはガタツキ防止用のアジャスター付きで、安定性も抜群。サイドの収納棚は可動棚を採用していますので、仕舞うものの大きさに合わせて昇降調節が可能です。

JOYSTYLE interior
Tel: 052-331-1245
rakuten.co.jp/joystyle-interior/

I'm Home

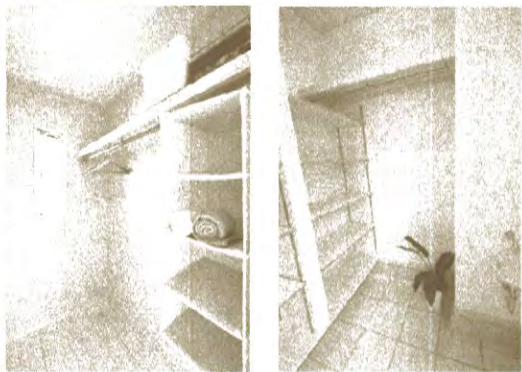
住み替えしませんか? もっと心地よい暮らしに。 House Pro

ハウスプロがおすすめする暮らし方

Vol.3 空間を工夫した収納

モノに囲まれて暮らす私たちの生活には、適材適所の収納が不可欠です。家づくりの際に重要視される収納スペースをプランによって有効に作り出し、快適に収納ができる、片付け上手な暮らしかたをご提案します。

■ ウォークインタイプの収納 ■



<当社施工事例①>

<当社施工事例②>

主寝室には、見渡れやすく衣類の出し入れがしやすいウォークインクローゼットを。お部屋をすっきりと見せることができ、インテリアのレイアウトの幅も広がります。(写真①)

靴を履いたまま出入りできるシューズインクローゼットは、スポーツ用品や子供の遊び道具などを。雑然となりがちな玄関に生活感のあるモノを出さずすっきりと保つことができます。(写真②)

■ 空間利用した家、好評分議中 ■

西習志野2丁目、駅徒歩2分の好立地に、間取りを自由に設計できるフリープラン全6区画。収納力のある住まいを創ることができます。



松が丘5丁目、「蔵」収納とサブリビングが空間に変化を持たせたLDK。土地面積40坪のゆとりある家。



前原東5丁目、リビングを見渡せるスキップフロアと大型「蔵」収納のある家。



東葉高速鉄道・新京成線「北習志野」駅から徒歩2分。店舗の隣に専用駐車場を新設いたしました。お打ち合わせスペースの側にはキッズコーナーもございますので、ぜひご家族でお越しください。お待ちしております。

■ フロアに段差をつける ■



<当社施工事例>

中二階のような、あえて段差をつけた構造の家に、高さ140cm以下の空間(大型収納スペース)を設ける。

床面積に算入されないため、居住スペースを圧迫することなく十分な収納を確保することができます。間取りプランによっては居室ほどの広さを持たすことも可能なため、増え続ける思い出の品や季節用品なども、少し丁寧に収納することにより気持ちのいいリビング空間となります。

■ 屋根裏の空間を利用 ■



<当社施工事例>

居室の一部を二層式にしてスペースをつくる小屋裏収納はロフトやグルニエと呼ばれ、階段下などと同様に有効な収納スペースとなります。趣味の部屋や書庫などの使いかたもでき、ロフトに面した空間は吹き抜けのように視界が上に抜けるため、居室を広く感じさせる効果もあります。

Stylish & Smart Life Creation 住まいをお洒落に愉しもう。

センチュリー21ハウスプロ

〒274-0063
船橋市習志野台3-18-9 フラワービル1階
TEL 047-496-0001 FAX 047-496-9000
お問い合わせメールアドレス info@c21housepro.com



■ 特選物件公開中! ■

ハウスプロ

